

ミツバチカラー絵葉書集 「岡田一次名作集」

Masterpieces by Prof. Okada

故岡田一次先生は著書「ミツバチ記」と「ニホンミツバチ誌」で、ご自身が撮られた鮮明な写真によって多彩なミツバチの生態をいきいきと綴られた。昆虫学研究室の学生にも「写真の1枚は数枚の原稿に匹敵する」と写真記録の重要性を説かれ、その影響で多くの弟子がカメラを持つようになった。先生の情熱は、「玉川こども百科61 みつばち」（1956年）出版のため、原稿1500枚と生態写真500枚を小原國芳学長（当時）から依頼され、2年余の苦心で完成されたことに由来する。当初の二眼レフから、やがて高級な望遠レンズ付一眼レフを入手、数々の「名画」をものにされた。大切に整理され遺された千枚以上の中から、先生の思いが込められた8組を選んだ。（吉田忠晴）

ニホンミツバチの自然巣と仏様

Feral colony of *A. c. japonica* and Buddha

1985年に岡田先生の郷里から金色の仏様とニホンミツバチの巣が写し出された一枚のナップ写真が届いた。当時先生は名古屋で開催される国際養蜂会議の準備で多忙な日々を送っていたが、急遽兵庫に戻られ、山里の祠の中に仏様とともに生きてきたニホンミツバチの自然巣を撮影された。この一枚は、岡田先生ご自身による会議の講演「ニホンミツバチの生態学上の特性」で、最後を締めくくるスライドとして世界に公表され喝采を博した。（小野正人）

The colony was living peacefully for years with Buddha in an old small shrine on the country hillside near Prof. Okada's hometown.

ニホンミツバチの分蜂群

A swarm cluster of *A. c. japonica*

4月末から5月に分蜂が起こる。空中を乱舞

する蜂達は次第に巣箱に近い樹木などに集合する。同じ樹種の似た場所を好んで選び、太く枝分かれした枝の下側に蜂球を造る。玉川大学から徒歩十数分のご自宅で先生は5~6群のニホンミツバチを飼っておられた。分蜂が始まると連絡を受けて学生達と駆けつけると、蜂は決まって玄関先にあるウメに固まっていた。“Study nature not books”「本からでなく、自然から学べ」が口癖の先生と、毎年5月、ウメの樹の蜂球をじっくり皆で観察した。（吉田）

Several colonies were kept in his backyard, from which swarms would fly out to cluster under the thick branch of a Japanese flowering apricot in May. Students were called to observe them each year.

レンゲを訪れたセイヨウミツバチ

A. mellifera visiting Chinese milk vetch, *Astragalus sinicus*

ある記事に「紅紫色の美しいレンゲ畑であれば、ミツバチはいつも活動していた。蜂がレンゲの花上に留まる時間は非常に短く、カメラのピントが合ったかな、と思う時には他花へ移っている。微風も素人撮影には邪魔もの。苦戦の思い出ばかりが頭にいっぱい」と書かれたように、岡田先生は開花に合わせ相模川や新松田、さらに各地のレンゲ畑を訪れた。レンゲをはじめ蜜源植物増殖への思いもひとしおで、1996年執筆の最後の論文2編（本誌17巻1号「ミツバチとの対話—蜜源—」、「薔薇」79号「愛する日本のミツバチたち よみがえれレンゲ蜜」）にも書き残された。（吉田）

Pink blossom of Chinese milk vetch in paddy field is familiar spring scenery in Japan, which quality honey Japanese like most of all.

ツバキ、ネズミモチ、ハナダイコン、サルスベリを訪花するミツバチ

Bees on *Camellia japonica*, *Ligustrum japonicum*, *Orychophragmus violaceus*, and *Lagerstroemia indica*

蜜源植物を訪れる蜂の写真は、ハチミツの解説に重要で、度々ご自宅の庭で一緒に撮影した。ツバキでは冬の暖かい日に花粉採集。ネズ

ミモチは重要な補助蜜源で、お庭にあった大きなクログネモチでは、ハチのうなる音が聞こえた。春先には玄関先までびっしりと紫のハナダイコンが咲き、枝に花粉だんごをつけた働き蜂が重そうに花上をホバリングし、ニッポンヒゲナガハナバチがせわしげに飛んだ。夏の蜜源である濃いピンク色のサルスベリでも、セイヨウミツバチが飛び交っていた。(吉田)

Various melliferous flora bloomed in his garden to welcome bees, camellia in winter, waxleaf privet and Chinese stock in spring, and crape myrtle in mid summer.

ポピーの花とセイヨウミツバチ

A. mellifera on poppy

岡田先生の奥様は園芸の才を発揮され、ご自宅の庭はいつも四季折々の花々で美しく彩られていた。そこには決まってミツバチをはじめ、たくさんの昆虫が集まり、賑やかに花粉を集め、蜜を吸っていた。岡田先生の遺された名画の中には、この自称「蜜源植物園」から生まれたものが多い。この美しいポピーの花にセイヨウミツバチが訪れ、空中で花粉を団子にしている様子をとらえた写真もその中の一枚である。奥様が花を育て、そこに集まる昆虫たちを先生が観察する、そして多くの弟子たちは素晴らしい共同研究を見せていただいた。(小野)

Photographs of bees and flowers were produced from the beautiful collaboration with Mrs. Yuri Okada, an excellent gardener.

ポピーを訪れた2匹のセイヨウミツバチ

Workers of A. mellifera visiting a poppy flower

ポピーの花を訪れ、空中を飛んでいる2匹のセイヨウミツバチをとらえた貴重な写真である。135mm望遠レンズをつけた一眼レフを三脚で固定し、一つの花に狙いを定めて撮影。働き蜂の飛来を待ち30回ほどシャッターを切ったが、2匹の蜂が並ぶように撮れたのはこの1枚だけであった。花の前に座り込み、蜂をじっと待つ岡田先生の姿が思い出される。愛用のカメラは研究室に大切に保管されている。(吉田)

Prof. Okada sat down on the ground and waited for the bees with his camera focused on a poppy flower, to finally shoot two foragers come flying in line.

王台中のローヤルゼリーと幼虫

Royal jelly and queen larva inside the queen cell

1959年4月26日発行の「アサヒグラフ」は「皇太子御成婚」を大きく報じた。この記念号に「話題の薬 ROYAL JELLY」と題し西独から輸入されたローヤルゼリー製剤が紹介され、外国での研究と共に、岡田先生提供の写真4枚が掲載された。王台中のローヤルゼリーと幼虫の写真は注目を集め、この記事後、製薬会社関係者の訪問が相次いだという。やがて国内生産が開始、科学的知識の普及がすすみ、ローヤルゼリーブームとなった。そのきっかけを作ったこの写真の重要な貢献は忘れられない。(吉田)

The royal jelly boom in Japan started in 1959. Many Japanese saw what royal jelly is for the first time with this Prof. Okada's set of photos, on the special issue of Asahi Graph, which reported Royal wedding of Crown Prince.

ナミテントウと飼育用の餌となった蜂の子

Ladybeetle, *Harmomnia axyridis* (top) and bee brood as the diet (bottom)

雄蜂は繁殖期には貴重な存在であるが、他の時期は働き蜂が集めた蜜や花粉を食べて巣内できろくろしている。英語では雄蜂のことを“Drone”(怠け者)と言う。岡田先生はこの雄蜂の有効利用を考え、雄蜂の幼虫や蛹を使って有益昆虫を飼育しようとめざした。手始めにナミテントウに与えたところよく食べる。幼虫もすくすく育つ。これをきっかけにそれまで飼育の難しかった肉食性のテントウムシやクサカゲロウの飼育が容易になり、これらを生物農薬として利用する研究が進んでいる。この発見は後に新案特許として登録された。(新島恵子)

Use of drone larvae and pupae as the protein source of diet for the artificial rearing enabled the mass production of various beneficial insects.



ニホンミツバチの自然巣と仏様

Feral colony of *A. c. japonica* and Buddha



ニホンミツバチの分蜂群

A swarm cluster of *A. c. japonica*



レンゲを訪れたセイヨウミツバチ

A. mellifera visiting Chinese milk vetch, *Astragalus sinicus*



ツバキ、ネズミモチ、ハナダイコン、サルスベリを訪花するミツバチ

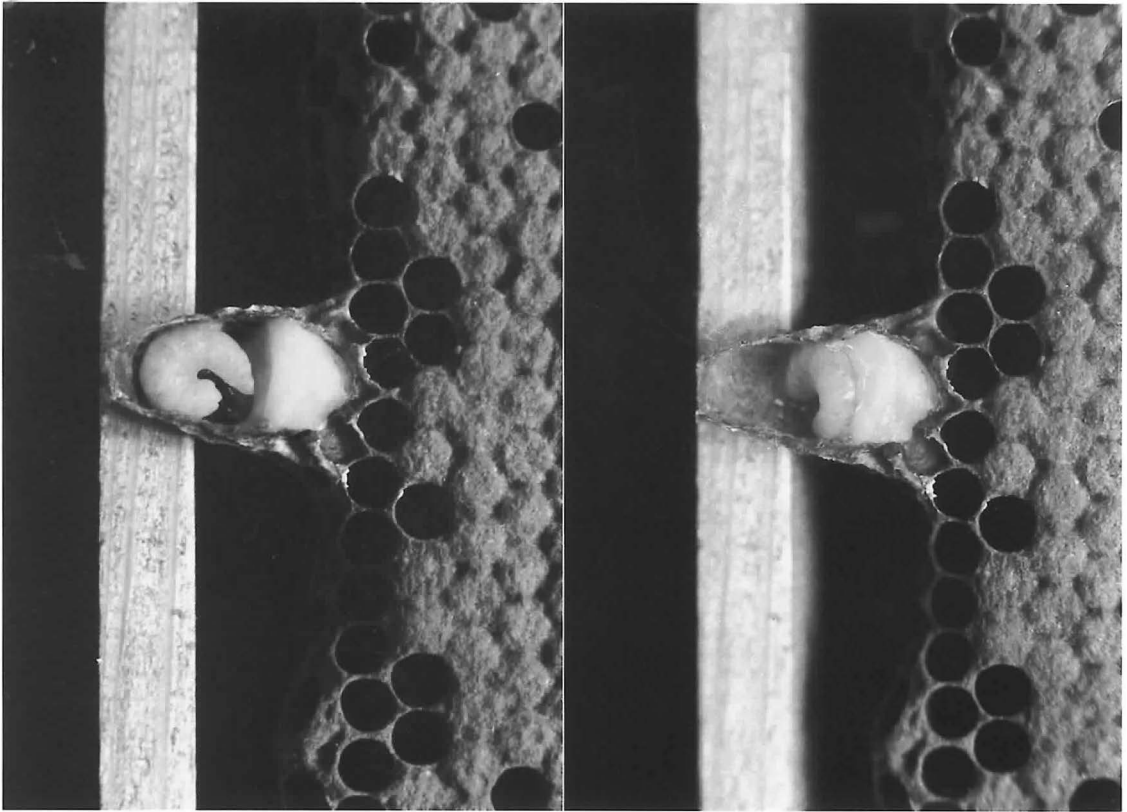
Bees on *Camellia japonica*, *Ligustrum japonicum*, *Orychophragmus violaceus*, and *Lagerstroemia indica* (clockwise from left)



ポピーの花とセイヨウミツバチ
A. mellifera on poppy



ポピーを訪れた2匹のセイヨウミツバチ
Workers of *A. mellifera* visiting a poppy flower



王台中のローヤルゼリーと幼虫
Royal jelly and queen larva inside the queen cell



ナミテントウ（上）と飼育用の餌となった蜂の子（下）
Ladybeetle, *Harmomnia axyridis* (top) and bee brood as the diet (bottom)